令和６年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

# 佐世保市立金比良小学校

校　長：竹川　宏一
児童数：１１３名　学級数：１０学級
所在地：佐世保市金比良町１番５号

**学校教育目標**
**ふるさとに誇りと愛着をもち**
**夢や志を育みながら**
**たくましく成長する児童生徒の育成**

## １　目　　的

本校では、教育目標の具現化に向け、以下のことを中心として特色ある学校づくりに取り組み、「知」「徳」「体」のバランスのとれた子どもの育成をめざす。

（１）　地域に開かれたコミュニティ・スクール、小中一貫型教育事業
（２）　学力向上対策事業
（３）　話せる英語研究事業

## ２　実　践　内　容

### （１）地域に開かれたコミュニティ・スクール、小中一貫型教育事業

①　地域人材を生かした活動

各学年におけるさまざまな活動において、たくさんの地域の方々がゲストティーチャーやボランティアとして参加してくださった。

【１年生　昔遊び】

【２年生　町たんけん】

【３年生　金比良博士になろう】

【６年生　ミシンの使い方】

【茶道クラブ】

② 小中一貫型教育事業

小中合同行事や中学校教師による乗り入れ授業、小中合同職員研修会の実施により、小中間の連携による充実した教育活動に取り組んだ。

【合同歓迎遠足】

【合同体育大会】

【小中対面式】

## （２）学力向上対策事業

① スキルタイムを生かした基礎学力の定着、児童が主役の授業づくり

週３回のスキルタイム（朝の活動）を生かし、既習事項の復習等に取り組んで、基礎学力の定着を図った。また、「児童が主役の授業」を合言葉に、校内研究を進めた。

② 学力調査の実施及び結果の分析

１月に、国語・算数の学力調査を全学年で実施した。１年間の学習の成果と課題を把握し、課題の重点補充や次年度の指導に生かすようにした。

## （３）話せる英語研究事業

① 中学英語教師、ALT、国際理解指導員による授業

子どもたちが楽しく英語に触れ、興味関心を高め、いきいきと学ぶことができるようにカリキュラムの工夫や小中連携による授業に取り組んだ。５・６年生は中学校の英語教師と協力しながらパフォーマンステストを定期的に行った。

② 異文化交流の推進

本校はアメリカ海軍佐世保基地や基地関係者の居住区に隣接しており、徒歩で行き来できる恵まれた立地環境にある。その環境を生かし、佐世保エレメンタリースクールの児童と交流し、子どもたちが英語によるコミュニケーションを体験し、ふあれあうことを楽しむ機会を作った。

③ 英語４技能検定（GTEC）の実施

６年生は英語４技能検定（GTEC）に取り組み、英語の授業における児童の成果と課題や教師の指導について客観的に評価することができた。

## ３　成　果　と　課　題

○　地域学校サポーターの登録者数を増やすことには、今年度も課題があった。地域学校協働本部との会合の場で、来年度はサポート内容をより具体的にして、わかりやすさを重視した募集を行うことにより登録者数の増加を図る等のアイディアが出された。今後も教育活動に地域人材を生かす取組の持続のため、サポーターの募集に努めていく。

○　学力調査の結果、算数はほとんどの学年で全国の標準スコアを上回る結果が出たものの、国語においては課題があることがわかった。校内研修を中心に全校の課題、学年の課題、児童個人の課題をしっかりと把握し、実態をふまえた授業づくりに全教職員が取り組んでいかなければならない。

○　エレメンタリー・スクールとの交流については、今後も継続できるよう、学期の制度や休業日、学校行事の違いを踏まえ、年度当初におおよその交流計画を打ち合わせておきたい。